

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873900476		
法人名	有限会社 久保田電気		
事業所名	グループホーム マロン館		
所在地	茨城県かすみがうら市栄倉6182-46		
自己評価作成日	平成21年8月24日	評価結果市町村受理日	平成22年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2		
訪問調査日	平成21年10月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>食事の献立を季節の野菜を中心としている点 朝ラジ体操その後のリハビリ体操を実施 畑を作り、野菜を育てている。肥料として、コンポストを利用して堆肥作りも行なっている</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>市街地から少し離れた、栗林が広がる自然豊かな場所にある。地域との関わりを大切にしており、地域の行事や小学校の運動会に参加したり、地域の奉仕活動にも積極的に参加している。他事業所との交流も行っており、イベントがある時には声をかけたり、遊びに行ったりしている。外出の機会も多くあり、買い物に出かけたり、馴染みの場所にてかけ、地域の方とふれあったり、また年2回、家族と一緒に遠出する機会がある等、利用者が生き生きと生活出来るように取り組んでいる。管理者や職員の利用者に対する対応はとても穏やかであり、サービス向上にむけて積極的に取り組んでいる事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 みの 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 みの 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自由、愛、楽しく、の理念のもと共有し、接している	当初の理念について話し合いの機会をもち、誰もが解りやすく、より簡単な言葉で理念を作った。職員全員で、これまでの暮らしを大切に、地域とのつながりを保っていただけるサービスに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、道路の草取りに参加している	地域の小学生が運動会の招待状を届けてくれて、利用者は楽しみに参加している。地域とのつながりを大切にしており、奉仕作業に参加したり、ホームの行事にボランティアをお願いしたり等、色々な場面で地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方達に利用者の方を理解して下さり、話を聞いてもらえた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事等の報告を行ない、情報交換をしている	2ヶ月に1回開催しており、民生委員や元区長、家族代表者などの参加があり、行事の報告を行ったり、認知症について話し合いが持たれたり、また、地域の情報を得る場としている。	回覧板を活用し、ホームの行事に地域の方が参加できるようにする等、地域とのつながりが、より深まるような話し合いが行われる事を期待したい。話し合いの内容については記録して頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の方を通して取り組んでいる	市の担当者とは、相談しやすい関係である。月に1回、介護相談員が来所し、色々な情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	暑くない日は玄関を全開にして、風を入れている	身体拘束についてのポスターが掲示しており、研修会には職員が参加し、伝達研修を行うなど身体拘束しないケアについて、職員全体で取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	あってはならない。 言葉使い等、ミーティング時注意を呼びかけている		

自己評価	外部評価	グループホームマロ館 項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加するようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんの今まで生活をしてきた様子を聞きだして、一緒に良いケアをしていきたい	家族会や家族の面会時には、積極的に声をかけ意見や要望等について言い出しやすいようにしている。利用者や家族の意見等については、話し合いの機会を持ち運営に活かすようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案を聞いて、良い方向に歩んでいきたい	代表者や管理者は、ミーティング時やそれ以外でも意見等が率直に言えるような関係作りを心がけている。職員は積極的に意見を出し合っており、その意見を運営に活かせるように、代表者を含め話し合いを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けて、やりがいが増すよう働きかけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤続年数等を把握しながら、研修をうけるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のデイサービスと交流し、行事はお互いに誘っている		

自己評価 実践状況	外部評価		
	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の言葉に耳を傾けて、聴く努力をしている</p>	
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族から相談があれば、聴く機会をつくる努力をしている</p>	
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族の方がみえて相談にのる際、他のサービスも利用できる事を話している</p>	
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>まずは顔なじみになり、会話を通じて笑いあう日になるようにしている</p>	
19	<p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者さんの情報を聞き取り、職員が皆で同じ対応ができるよう努めている</p>	
20	(8) <p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>以前に行っていた美容室の方に送り迎えをして頂いている方もいます</p>	<p>これまで大切にしてきた馴染みの人や場所について、本人や家族から話を聞き情報収集している。馴染みの美容室に出かけたり、買い物に出かけたり、家族の協力を得てお墓参りに行ったり、友人の面会があったりなど関係継続の支援に努めている。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>リビングのイス、テーブルの位置を替えてみたりしている</p>	
22	<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>以前の入居者の引受人の方が来てくださることもあります</p>	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			

自己評価	外部評価	グループホームマロ館 項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんとコミュニケーションをとり、希望に添うようにしている	思いが伝えられない場合は、家族に確認したり、表情やしぐさから汲み取るようにしている。日頃の関わりの中で、コミュニケーションを大切に、そこから思いや意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴を家族の方に聞いてサービスの中に取り入れられるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身状態を見守りながら手伝ってもらっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員と家族が話せる場を作る 家族の方達も一緒に計画を立てられるように、情報を交換しながら作成できるよう努めている	本人や家族、職員の意見を反映した介護計画を作成するようにしている。定期的にモニタリングも行われている。	利用者の情報を共有し、生活の資質向上につながるような介護計画を、全職員で協働し作成する事を期待したい。また、日々の記録については、介護計画の見直しに生かせるような書き方にしていく事も期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化がある時は、職員間で話し合いをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員と家族が話せる場を作る		

自己	外部	グループホームマロ館 項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公共施設を利用して出掛けて楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望、家族の方の要望があれば話し合っ受診している	本人や家族が希望する病院に受診支援している。通院介助は、ホームで対応しており、受診後は家族に必ず報告している。かかりつけ医とは積極的に関わりを持つようしている。歯科の往診も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が来館し、健康管理と相談をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	洗濯物があれば取りに行き、状態を聞いたり、家族の方と連絡をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になった場合は、どうしたらいいか家族の方と方針を話し合っ、職員に伝えている	家族に看取りの希望があれば、対応していきたいと考えており、職員も理解している。重度化する利用者についての対応については、家族や職員と共に方針を共有している。	終末期支援について、事業所が対応し得る最大の支援方法について、ホーム全体で話し合いを行ったり、書類の整備や医療連携体制について、整備していくことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職してからは救急法の講習を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害があった場合は、地域の方達とお互いに避難場所を確保している	消防署と一緒に訓練を行ったり、自主訓練を行ったりしている。連絡網や避難経路などが整備されている。運営推進会議では、地域とホームがお互いに協力できるよう話し合いが行われている。災害用の備蓄品の確保も行われている。	

自己	外部	グループホームマロ館目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは、尊厳を持って使っている	人生の先輩である事を常に意識し、目線を合わせての言葉かけや対応をしようとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんに合わせた話し方で伝えて理解して頂くよう支援して、どうするか決めてもらっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活を大切にして、希望があれば買い物、入浴等支援している。 昼食後のうたたねは気持ちよさそうにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の方がバリカンできれいにしたり、美容室に出掛けたり、美容室の方が来館しカットしたりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で、テーブル拭き、おしぼり配り、お茶碗拭きをして頂いている 好みや判っている方には配慮している	食事の準備や後片付けなど、利用者と一緒にしている。職員は、利用者と同じテーブルを囲み楽しい雰囲気ですべてできるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自力摂取できない方には、記録しており、食事量も別に記入するようになっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎夜、寝る前義歯を預かってきれいにしたり、口の中をガーゼで拭き取っている		

自己評価	外部評価	グループホームマロコ館目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決めて、オムツを替えている 排便の時、トイレにかけて、便が出るように見守っている	トイレですっきり排泄出来るように、その方のタイミングや時間を決めながらトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬の服用をして頂いたり、歩く時間を多くしたりしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特別な行事がない時は、毎日入浴して頂いてます	本人が決めた入浴日や、1番に入浴したい等の希望に合わせた支援を行っている。入浴を嫌がる方に対しては、その方に合った対応方法を検討している。季節に合わせて、ゆず湯にする等、楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室でTVをみたり、リビングの長椅子でうたたねしたりしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者さんに合わせて、1回分渡したり手にのせたり、口に入れてあげたりする		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割が決まって、行なっている時は、楽しそうにしているし、他の事には触れてこない		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節にあわせて散歩の時間をずらしたり、買い物と一緒に行って荷物を持ってもらったり、菓子を買ってきたりしている	春はお花見、秋はみかん狩りに家族も一緒に出かけている。日常的に、天気のよい日は散歩に出かけたり、ドライブに言ったり、本人の希望に合わせて買い物に出かけたりと、外に出る機会を多く作っている。	

自己	外部	グループホームマロ館目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で支払うことができる人は、お金を持って買い物に行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を要望している方には、話ができるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、季節に合わせた物を取り入れて、眼で楽しんで頂いている 食事以外で、皆がTVを見られるようにテーブル、椅子の配置をしている	居間には、ゆったりとくつろげるソファが置いてあり、その場所でテレビを見たり他者とおしゃべりしたりする場面が見られた。共用空間は清潔感があり、季節の花を飾る等、居心地よく過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の上り口と廊下に椅子を置いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ベットか畳か選んで頂き、自宅で使っていたなじみのある品物を持参して頂いている	自宅で使った筆筒やお気に入りの洋服、家族の写真が飾られたりと、利用者の個性が表れる居室であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日の生活パターンを変えることのない様 にしていきたい		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策	火災や地震時に昼夜を問わず利用者が避難できる方法を職員が身につける	夜間体制に重点をおいて、自主訓練、消防署と一緒に訓練をする	6ヶ月
2	48	役割、楽しみごとの支援	張り合いのある日を作って笑顔で過ごしてもらう	日中、カラオケをかけて楽しんでもらったり、外に出て畑の作業をしたり、みなさんと話して下さる方を招いたりする 掃除の手伝い等もしていただく	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。